

2025年度 住宅地盤技士（調査部門） 正解および解説

問題	正解	解 説
1	3	土粒子の沈降速度は粒径や密度、流体の粘性などで決まり、水の流速には直接比例しない。
2	2	造成地の地形境界は盛土で覆われることもあって、識別がつかないことが多い。
3	3	設問3は、泥炭の記述である。
4	1	CBR 試験は力学的性質を求める試験である。
5	2	飽和度は $S_r = (V_w/V_v) \times 100$ で求める。
6	3	$F_L=1.0$ より大きければ液状化の可能性はないと判断する。
7	1	(2) 最大の不同沈下量は、測点 BD 間の 9.7cm である。(3) 一様沈下量は測点間の共通部分で 16.6cm である。(4) 総沈下量は、各測点の絶対沈下量である。
8	4	(D) 地点付近には、本川の流路変化は認められない。
9	4	低湿地に盛土した場合は 10 年経過しても軟弱層の圧密沈下が収束しない可能性もある。
10	3	3m ² ごとに 1 箇所以上設ける。
11	3	図中の「地業」の範囲は、捨てコンクリートと砕石である。
12	1	土地条件図は地形分類ごとに色分けされている。利用区分は土地利用図による。
13	3	遮蔽物があっても養生は行う。
14	4	土質の記載は、試験要件に含まれない。
15	2	$N_a = 50$ 回に対して $L=0.05\text{m}$ である。
16	1	設問1は、電気式コーン貫入試験の記述である。
17	2	水圧式の方が、硬質な粘性土や締まった砂質土に適している。
18	1	国土交通省告示第 1113 号第 2 を参照のこと。
19	3	有機質土層の周面摩擦力は考慮しない。
20	4	フェノールフタレイン溶液の噴霧は、混合むらや改良境界の確認のために行う。
21	1	応力分散角 ($\tan \theta$) が大きくなれば、下部地盤に作用する最大接地圧 q' は小さくなる。
22	4	先端支持力は改良体先端より上下 1D の範囲における平均 N 値から求める。
23	3	改良径（掘削径）より大きく静止状態に寄与している。
24	4	(1) 建柱車は振れ止めもなく、目視だけでは施工精度を確保できない。(2) $1D_w$ (D_w : 拡底翼径) 以上貫入する。(3) 技量や環境に依らないためには機械式継ぎ手が推奨される。
25	4	べた基礎も布基礎と同様の配置間隔である。
26	2	H 形と四角形では周長は同じだが、先端有効断面積は四角形型の方が大きい。
27	1	3 か所では 70% の低減率になる。
28	2	設問2は GX についての記述である。
29	4	記述 A～D は全て適切である。
30	2	一人で休ませず 119 番通報と応急処置をする。